



中国舞踊教室の運営を通じた異文化交流促進事業

●陳美霖 (ちん めいりん) さん

日本の文化が大好きで日本に来たが、日本では中国の文化が知られていない。56の民族ごとに違い、日常的に楽しんでいる中国舞踊を日本で紹介し、異文化交流に役立ちたい。審査待ち時間に美しい舞踊を見せてくれた。



新電力評価のプラットフォーム「エネクラシー」～スマートな消費者が選択するエネルギーベストミックス社会～

●伊藤福朗 (いとう ふくお) さん

電力自由化により参入する企業は600社とも言われる中、消費者が選択基準を考える場となるWebプラットフォームを計画。比較だけでなく、民主的選択による持続可能エネルギーのベストミックス社会実現にも寄与。



多国籍オーケストラで世界と繋がる感動体験を

●飯島智珠 (いじま ともみ) さん

初めてオーケストラの一員としてステージに上った時、とても感動した。多くの人と目的を共有し音楽を作り上げていくオーケストラ体験は人を成長させる。同時に日本のオーケストラの活動拡大にも繋げたい。



社会起業家活動報告

グランプリ獲得を機に様々な動きが格闘技選手の育成とジムのFC展開

●2015冬グランプリ獲得 山城裕之さん

グランプリで注目され具体的なビジネスの話が来るようになった。この半年、株式会社を設立、湘南エリアに3支部を展開、実業団所属選手もチャンピオン等に成長、コンビニやコインパーキングと提携したFCも進行中だ。



世界最貧国マダガスカルの世界最高級ラフィアで紡ぐバッグ

●絹巻千枝 (きぬまき ちえ) さん

JICAで15年支援に関わってきたがアフリカの貧困層はむしろ増えている。マダガスカル人は手先が器用で勤勉。高級ファッション素材として注目されるラフィアのバッグを現地生産し、日本向けの輸出産業にしたい。



「起業家の志を応援しながら自らも成長する」チャレンジスター☆サポーターズの挑戦！

●齊藤学 (さとう まなぶ) さん

東北は人口減、高齢化、雇用など日本全体の問題を先取りしている。起業が盛んな仙台から全国に起業家を紹介し、サポーターからは人脈、販路、情報などの支援を募る。日本の起業家を支える社会インフラに育てたい。

「グランプリは、該当者なし」。田坂広志審査委員長がそう告げた、初めて残念な結果になった「ソーシャルビジネスグランプリ2015夏」(財団後援イベント)は8月29日に開催された。該当なしの理由は、ビジネスのスケールやソーシャルインパクトが弱いこと。田坂氏は直前の基調講演で、「なぜ、優れた社会起業家は『多重人格』なのか?」というタイトルで、志やビジョンだけでなく、具体的な戦術、人やお金を動かす技術など、大きな変革を起こす社会起業家には欠かせない能力があることを訴えており、他の審査員もその点に触れる場面が多く見られた。

審査員の一人、町井則雄氏は「私が所属する日本財団は多くの社会事業に助成しているが、その原資はポートレイスというギャンブル。けてしてソーシャルとは言えないが、現実的で持続性のあるシステム」と一例を挙げた。

グランプリには届かなかったが、観客の共感度で選ばれる共感大賞には絹巻千枝氏が、審査員奨励賞として中国人の陳美霖氏が選ばれた。

政治起業家活動報告として、俳優の伊勢谷友介氏の現代版松下村塾がスクリーンで紹介され、前回グランプリの山城裕之氏は弟子2人と登壇した。



社会起業大学の田中勇一理事長は、「グランプリ該当なしは残念だが、厳しく温かいメッセージに感謝と反省をしている。でも小さな一歩は大切。一人ひとりが持つ力を信じて、いっしょに社会を変えていきましょう!」と締めた。

前回グランプリの山城氏は、日本一クラスの2人の弟子と登壇し、激しいミット打ちなどを披露した。



田坂審査委員長は総評で、「個々の志にはもちろん敬服するが、社会起業が珍しくなくなった昨今、もう一段高いステージに進む我々の宣言としての該当者なしです。今日は社会起業大学の受講生だけでなく、審査員、観客、皆にとって大切な最終講義となったはず」と述べた。